

令和4年度全国学力・学習状況調査の
結果をふまえた指導改善策

I 調査の概要

1 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- 上記のような取組みを通して、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の対象

小学校第6学年・義務教育学校第6学年の児童

3 調査の内容

- (1) 教科に関する調査（国語、算数、理科）
- (2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査
 - ・児童に対する調査
 - ・学校に対する調査

4 調査日時

令和4年4月19日（火）

II 学力調査の結果【小学校・義務教育学校前期課程】

1 教科に関する調査結果（平均正答率※）

	国語	算数	理科
全 国	65.5	63.2	63.3
広島県	67	64	66
府中市	65	63	63
国府小	64	57	56

※平均正答率とは、「児童の正答数の平均」÷「設問数」の値を、%で表わしたものです。

2 調査問題の趣旨・内容

区分	調査問題の趣旨・内容
国語	<ul style="list-style-type: none"> ○互いの立場を尊重しながら意図を明確にして話し合い、自分の考えを広げたりまとめたりする。 ○物語を読み、登場人物の気持ちや相互関係に着目して、物語の全体像を想像したり表現の効果を考えたりする。 ○文章全体の構成に着目して文章を整えたり、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよりどころを見付けたりする。 ○学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ○日常生活の問題を解決するために、目的に応じて、数量の関係に着目し、数の処理の仕方を考える。 ○問題場面の数量の関係に着目し、基準量、比較量、割合の関係や、伴って変わる二つの数量の関係について理解している。 ○日常の問題を解決するために、目的に応じて、表やグラフを読み取り、データの特徴や傾向を捉え考察する。 ○図形を構成する要素に着目して、図形の意味や性質について理解したり、図形の意味や性質を基に図形の構成の仕方について考察したりする。

3 調査結果にみられる特徴と課題及び今後の改善策

【国語】特徴と課題

◆1 四・・・本校 30.9% 広島県 49.4% 全国 47.7%

〔第5学年及び第6学年〕思考力、判断力、表現力等A 話すこと・聞くこと

→多くの児童が、要約する際に、2つの条件のうち一方の条件しか満たすことができていない。

→相手の立場や意見を理解して共感し、それに対する考えを書くことに課題がある。

◇…相当数の生徒ができています点 ◆…課題のある点

【国語】改善策

・条件を与えて要約指導を行う

中学年以上の学年で文章を要約させる際には、目的を意識した上で中心となる語や文を見付けるように指導する。また、条件を2つ以上提示することで、それに合わせて書くことができていのかどうかをふり返る（評価する）ことができるようにする。

（条件の例）

①字数を指定する・・・・・・・・・・（例）50文字以上80文字以内にまとめて書きなさい。

②使用する言葉や文を指定する・・・・（例）本文の中の言葉や文を取り上げて書きなさい。

③書く内容を指定する・・・・・・・・・・（例）〇〇が分かるように書きなさい。

・主張や主題、相手の考えに対して感想をもつ活動を行う。

【算数】特徴と課題

◆2 (3)・・・本校 18.2% 広島県 21.5% 全国 21.4%

〔第5学年〕C 変化と関係

果汁が20%含まれている飲み物の数量が変わっても割合は変わらないことを理解しているかどうかを問う問題

→多くの児童が、数量が2分の1になると、割合も2分の1になると思っていると考えられる。

→すべての領域において、基本的な知識・技能の定着が不十分である。

→思考・判断・表現の問題では、特に日常生活と対応した問題の解決が課題であった。具体的な場面と関連した指導が必要である。

【算数】改善策

・授業の最初に知識・技能に関する問題をフラッシュ問題形式で出題し、児童に答えさせる。

・基礎的基本的な知識・技能を身につけることができる問題を繰り返し行う。

・日々の授業の中で、児童自らが考え、教え合い、学び合うことができる授業を行う。そして考えたことを文章化させる活動を行う。

【理科】特徴と課題

◇1 (1)・・・本校 94.5% 広島県 93.3% 全国 92.9%

〔第4学年〕B生命・地球

見いだされた問題を基に、観察の記録が誰のものであるか選ぶことができる。

◆3 (1)・・・本校 25.5% 広島県 28.6% 全国 27.8%

〔第3学年〕A物質・エネルギー

日光は直進していることを理解しているか問う問題

→知識を概念的な理解が不十分である。習得した知識を次の学習や生活などに生かすことができるようにすることの重要性について意識して授業改善する必要がある。

【理科】改善策

- ・授業の最初に知識・技能に関する問題をフラッシュ問題形式で出題し、児童に答えさせる。
- ・実験後の考察の際に、実験結果を分析する前に問題を確認させ、それを視点に分析させる。また、結果から考えられることを交流する際にも問題を再確認させ、考えの見直しを行う。

Ⅲ 学習状況調査の結果

1 学習状況調査（児童質問紙）の結果にみられる傾向

肯定的な回答の割合が、全国平均値よりも高かった項目

(36) 学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか
国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。

・・・肯定的な回答した児童 本校 100% 広島県 95.2% 全国 94.4%

肯定的な回答の割合が、全国平均値よりも低かった項目

(21) 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）

・・・1時間以上と回答した児童 本校 49.2% 広島県 60.7% 全国 59.4%

2 生活習慣・学習環境などに関する改善のポイント

- ・1日あたり（月～金曜）1時間以上勉強していると回答した児童が全国平均値を下回っていることから、家庭での学習習慣の定着に改善の余地がうかがえる。家庭と連携を図ることで、児童一人一人が、学校だけでなく家庭においても主体的に学習できるような取組を行う必要がある。
- ・学校では、宿題の量は変えずに、質を上げていく指導と評価を行う。繰り返し漢字を書いたり計算したりするだけでなく、漢字の使い方を思考したり、文章問題の解き方を説明したりするなどの思考を働かせるような内容にする。
- ・宿題で行ったことがその後の授業につながるようにすることで、宿題に主体的に行えるようにする。